

豹変と沈黙

日記でたどる沖縄戦への道

戦争がどのように人を変えてしまうのか、兵士の日記がその時の思いを伝えます

【この映画を見て考えたいこと】

「戦争」あるいは「軍隊」が、どのように「人」を変えてしまうのか、それぞれの人生を狂わせ、苦しませ続けていくのか、考えさせる映画です。

「日記」という一人称の語り、兵士たちのもがき、苦しみ、その時の心情の吐露を私たちに伝えます。

日記は回想ではなく、その苦しみや悩みのさなかに書かれているものです。そしてこれらの日記が書かれている時は戦争の真っ最中です。だからひとりひとりの兵士が「戦争」をどのように見て、感じていたのかその心の内と思いを、私たちは日記を通して、透かしてみることができます。

映画の作り手は、そうした日記に書かれた兵士ひとりひとりの心の内を残した言葉を探し当てて、それをもとに、表現の限りを尽くして、映画を見る人がイメージできる形にし、伝わってくるものになっています。

私たちを含め、戦争を知らない多くの人に、とくにこれからの社会、世界を作っていく人たちに見てもらい、「戦争」とはどのようなものか自分のこととして考えていってほしいと思います。

今の自衛隊の「兵士」も、戦争をすれば人を殺し、殺されるわけです。それが具体的にどのようなことなのかを想像できるでしょうか。

「憲法9条があったから、戦後何十年もの間、国の名において、ひとりの人も殺さず、殺されることもなかった」この言葉の意味をかみしめて、もう一度「戦争をしてはいけない、させてはいけない」という意志を強くしましょう。

【なぜ戦争をするのですか】

日本は 武器輸出をして、他国の人を殺し合いをさせる国になってしまいました。また自衛隊も、自分たちの「国」がよければ、他国を攻撃し、人を殺してもよいと戦争の準備を着々と進めています。

憲法9条の歯止めがあったからこそ、戦争に加われないという言い訳の材料があったにもかかわらず、その歯止めをどんどん外してきます。憲法を変えて名実ともに自分から戦争できる国にしていこうとしています。

いったい何のために、誰のためにそんなに戦争をさせたがるのですか。儲けたいからですか。

自分たちが儲かりさえすれば、自分たちがいい暮らしをできさえすれば、ほかの国の人を殺し合うのもいいのではないかと考えるのですか。

そして今の戦争は、兵士同士が戦う戦争ではなく、一方的に人殺しをし、抹殺していくような戦争なのです。そうした戦争を進め、それに加担しようとしているのです。何のために。

【憲法は、何より「人」を大切にもの】

戦争を無くすにはどうしたら良いか考えましょう。軍隊をなくし、戦争によって人の心が変わられないようなものにして行くこと。それは「人」と「いのち」を何より大切にするという日本国憲法がもっともめざしていることなのではないかと思うのです。

だから9条がある、そこを変えてはならないと。



第88回 憲法を考える映画の会

■日時：2026年6月7日（日）

13：30～16：30

■会場：文京区民センター 3A会議室

（地下鉄春日駅・後楽園駅）

■プログラム

13：30～13：35 この映画について

13：35～15：20 映画『豹変と沈黙 日記でたどる沖縄戦への道』上映（104分）

15：20～15：30 休憩

15：30～16：30 トークシェア

■参加費：一般 1000円 若者：無料

■憲法を考える映画の会の案内チラシを配ってご紹介いただける方にお送りさせていただきます。送り先と枚数を下記の連絡先までお知らせ下さい。

憲法を考える映画の会

連絡先：〒185-0024 東京都 国分寺市泉町3-5-6-303

mail：hanasaki33@me.com TEL:042-406-0502

ホームページ：http://kenpou-eiga.com/

これからの憲法を考える映画の会

第89回 憲法を考える映画の会

日時：2026年8月（予定）

会場：文京区民センター（予定）

- * 6月1日に会場抽選の結果が出るので、それを待ってご案内します。
- * この後の上映作品の候補として、戦争を仕掛け、続けてきた国アメリカを描いた映画『Warmericaの運命』『1923関東大虐殺』が上がっています。どちらも韓国制作のドキュメンタリーです。
- * 以降、10月、12月、2027年2月と、これまで通り2ヶ月に1回の開催を予定しています。

「憲法を考える映画のリスト2026年版」が完成

映画と一緒に見ることで一緒に考え、話しあう場があちこちで作られることの役に立てばと考えて、2014年から2年おきに作ってきた「憲法を考える映画のリスト」の最新版、2026年版が完成しました。新しく加えた作品を含め、200の映画作品の「どんな作品?」「どこで借りられるの?」「上映料はいくらぐらい?」に答える情報が掲載されています。



1冊600円です。憲法を考える映画の会の上映会場にて販売。
 郵送でお求めの方は、郵送料を含め1000円です。
 住所、氏名をお教えたいただければ「リスト」とともに振込用紙を同封してお送りします。

郵送で「憲法を考える映画の会」の案内をご希望の方へ

「憲法を考える映画の会」は2ヶ月に一度の上映会をしています。その案内をご希望の方にメールと郵送で案内をさせていただいております。

郵送での案内をご希望の方

2006年4月から1年間の上映会の案内を郵送でご希望される方には、年間（6回の上映会）1000円の郵送料のご協力をお願いします。

■ 郵便振込の場合

「口座記号・番号00170-2-729555憲法を考える映画の会」に郵便局窓口から送金ください。

■ 会場での受付の場合

上映会場で「上映会参加票」に、住所をご記入の上受付で1000円をお渡しください。

上映会・催しの案内

5月20日（水）18時15分～ 無実を救おう！ノーモアえん罪、再審法改正を市民の力で。再審法改正をめざす市民の会7周年集会(文京区民センター2A.B=地下鉄春日駅・後樂園駅)

5月22日（金）13時～ 狭山裁判勝利をめざす市民集会5・23全国集会(一ツ橋日本教育会館大ホール=神保町)

5月23日（土）13時～ シンポジウム「学問の自由と政治権力の学術への介入」長谷部恭男さん、加藤藤子さん、石川健治さん（弁護士会館=霞が関駅）

5月23日（土）18時半～ 市民憲法講座「戦争をめざす日本の軍拡の実態」池田五律さん（文京区民センター=地下鉄春日駅・後樂園駅）

5月23日（土）19時～ むさしの憲法市民フォーラム「#ママ戦争止めてくるわー治安国家の再来に抗して」お話：青木理さん（武蔵野スイングホール=武蔵境駅）

5月23日（土）映画『医の倫理と戦争』上映会（全労連会館=御茶ノ水駅）

5月23日（土）13時半～ 日本科学者会議神奈川支部定期大会 林博史さん講演「沖縄戦 なぜ住民がスパイ視されて殺されたのかー『スパイ防止法』の歴史的経験」（横浜市開港記念会館=日本大通り駅）

5月24日（日）13時半～ 第7回平和を求め軍拡を許さない女たちの会シンポジウム（専修大学=神保町駅）

5月29日（金）～31日（日）10時～ 平和のための戦争展inよこはま「見つめよう！語り合おう！戦争の過去といま」（かながわ県民センター=横浜駅）

5月30日（土）13時半～ 今、自衛隊と憲法9条を問う！「憲法を武器として」羽村上映会（羽村市生涯学習センター=羽村駅）

5月30日（土）『ドキュメント石垣島』『拝啓 住民投票さま 石垣島の真ん中で起きたこと』上映会（旧労政会館=国分寺駅）

6月2日（火）14時～ 情勢セミナー「共同の発展をめざして 高市政権がもたらす複合危機と市民運動の役割」佐々木寛さん（神商連会館=東神奈川駅）

6月5日（金）～7日（日）10時～[戦後81年アジアとともにパネル展・6日（土）14時～講演「アメリカの中東戦略と民衆の闘い」藤田進さん・7日（日）14時～講演「戦争犯罪に加担しない国へ」杉原浩司さん(浦和コムナーレ=浦和駅)

6月7日（日）13時半～ 第88回憲法を考える映画の会『豹変と沈黙』（文京区民センター=春日駅）

6月14日（日）14時『はだしのゲンはまだ怒っている』上映会（光が丘区民センター=光が丘駅）